

シリア国農業普及員訓練

(調査期間：1999年3月～24ヵ月、担当業務：参加型開発)

調査背景

シリア政府は、食糧自給率の向上のために農業生産の増大を石油・ガス開発と並んで国家開発政策の最重要課題として取り組んでいるが、低生産性、人口及び消費量の増加により食糧自給は未だ達成されない状況にある。係る状況においては、生産農家に対する技術指導、適正技術移転等普及教育が極めて重要であるが、現状では右分野において技術・知識ともに満足すべきレベルに達している人材が少ないことから、普及員の養成をはじめとする普及事業の整備が強く望まれている。そこで、普及員の質的向上の必要性が指摘され、そのために訓練局を相手側機関とし、普及員研修センターに対する技術協力を目的として専門家派遣が要請された。要請の内容は、研修センターにおける普及員訓練のための訓練活動の強化であり、主な指導内容は普及員訓練のためのカリキュラムや教材の見直し及び改善、普及員訓練に関わるスタッフの養成である。

調査概要

普及員訓練改善のためにまず、普及員に対して実施されている既存のトレーニング・コースの実態調査を行った。その結果に基づいて、普及員のレベルに応じた研修の実施、講義中心の座学ではなくより実際的な研修の実施、研修内容のニーズ調査とそれに基づく研修計画の作成、中央と地方の研修の有機的な連携等、普及員訓練改善のための提言を行った。次にこれらの提言をもとにして具体的な改善活動に取り組み、既存訓練コースのカリキュラムの改善や新規訓練コースの企画及び実施を行った。内容としては、普及員訓練のための講師を育てる TOT (Trainer of Trainers) コース、果樹に関する SMS (Subject Matter Specialist) コース、普及活動におけるコンピュータの活用等の新規トレーニング・コースの企画と実施である。さらに、訓練コースの見直しや改善のためには研修内容のニーズを的確に把握し、それを研修計画に反映させることが必要である。そのための農家調査やニーズアセスメントの実施に関して、住民参加型手法を取り入れた調査が有効であり、普及員訓練コースのカリキュラムの一部として取り入れた。また、現場の問題点や訓練ニーズの把握に関連して、「地域理解の手法」というテーマで訓練コースを実施した。このコースでは、既存の農業統計データや白地図を用いた簡単な GIS 手法等を利用して対象地域の特徴を把握し、それらをもとにして小規模プロジェクト (村おこし) 企画のための地域選定を行った。

担当事項

- 既存のトレーニング・コースの実態調査と改善のための提言
- 普及員のレベルに応じた研修の実施
- 中央と地方の研修の有機的な連携のための TOT (Trainer of Trainers) コースの実施
- 普及員訓練における新しい研究成果や情報の伝達
- 果樹の SMS (Subject Matter Specialist) コース、普及活動におけるコンピュータの活用等の新規トレーニング・コースの企画と実施
- 住民参加型手法を取り入れた訓練ニーズの把握

